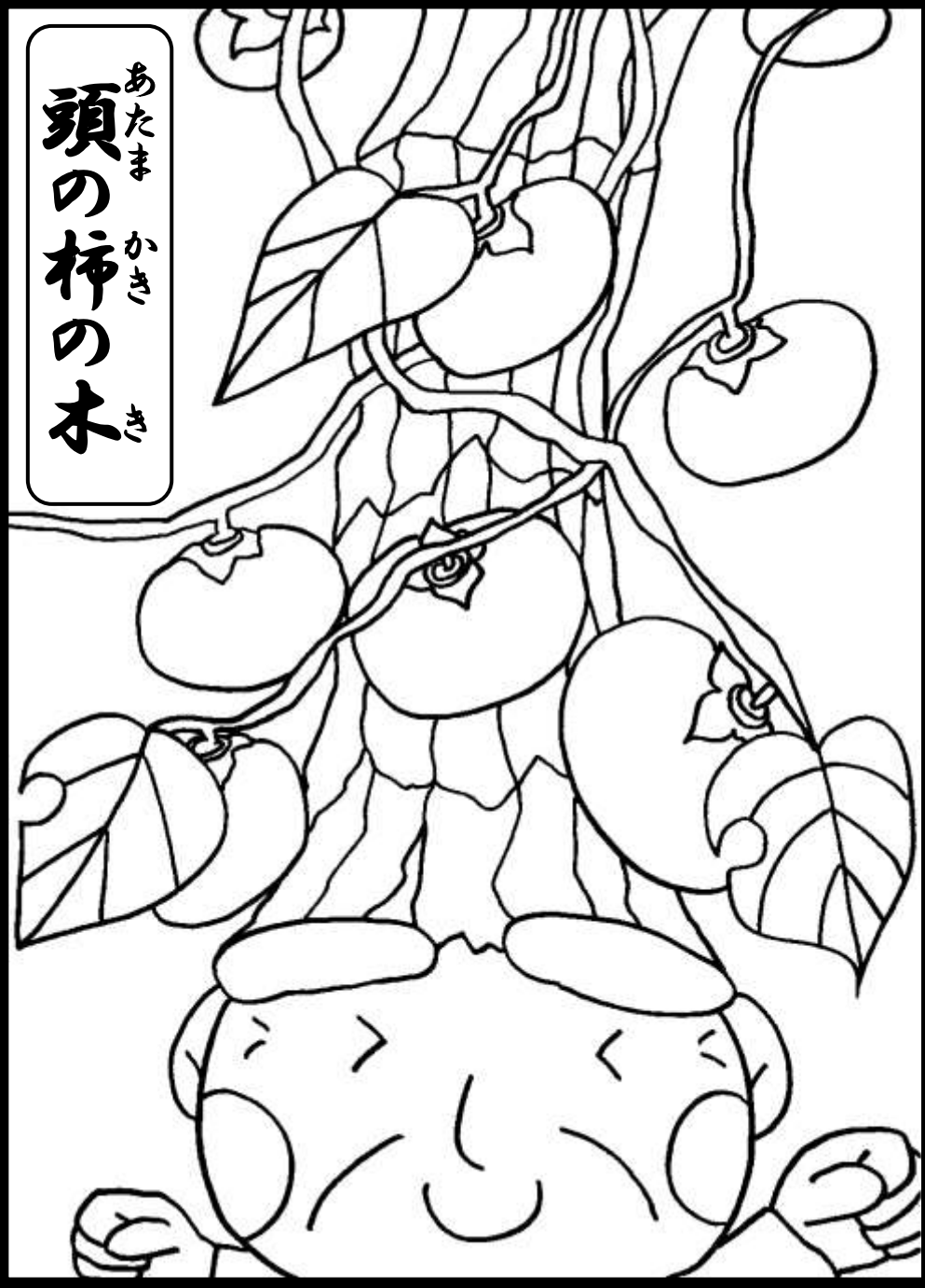


あたま  
かき  
頭の柿の木



むかし、びんぼうなおじいさんが、柿の種を拾った。  
家もないから、頭 のてっぺんに種をのっけてみた。  
8年が経つと、あま柿が実った。おいしかったので、  
売って歩くとたくさん売れた。すると柿商人たちが、  
おじいさんの頭 の柿の木を切ってしまった。

3年も泣いて過ごしていると、ある日、頭 の柿の木  
の根っこがくさって、季節ごとにきのこがつつぎと  
はえてきた。ふところもほくほくになった。

すると今度は、岩見山内のきのこ取りたちが、  
おじいさんの頭 の柿の木の根っこを掘ってしまった。  
頭 には大きな井戸ができた。大雨が降ると、頭 の  
井戸に水がたまった。さけやます、うなぎが住んだ。  
それらを取っては売った。晴れては水がかれ、雨が  
降っては魚を取って売る生活には、だれもやきもちを  
焼かず、おじいさんは裕福に暮らした。

とっぴん ぱらりの ぷう♪